

科目名	認知症介護実践者研修の理解	研修形態と講義時間：講義・演習（60分）
目的	認知症ケアを実践する者の役割と研修科目との関係性を踏まえ、研修の概要を把握する。認知症介護の実践者として自己の課題を確認し、研修における学習目標を明確にする。	
到達目標	1. 認知症介護を実践する者の役割と研修科目との関連性を踏まえて研修の概要を把握する。 2. 認知症介護を実践する者として課題を認識し、研修における学習目標を明確化できる。	
概要	認知症介護を実践する者に必要な知識や技術の理解を踏まえ、研修科目の必要性や研修全体の目的など研修概要を把握する。また、認知症介護を実践する者としての自己課題を確認し研修の受講動機を高め、学習目標を明確にする。	
内 容		備 考
1. 認知症介護実践者の役割	1) 認知症介護実践者に必要な知識や技術	・実践リーダー研修カリキュラムに準じ、実践者に必要な知識や技術を理解する。
2. 認知症介護実践者研修の概要	1) 研修の目的 2) 研修の到達目標 3) カリキュラム全体の構成 4) カリキュラム別のねらいと概要	
3. 課題の明確化	1) 課題の明確化 2) 研修における学習目標の明確化	

※オンラインを活用する場合は、同時双方向で意思疎通等できる方法とし、実質的に集合研修と同程度の効果が期待できることとする。

科目名	認知症ケアの理念	研修形態と講義時間：講義・演習（150分）
目的	認知症の人の理解を踏まえた、認知症の中核症状、行動・心理症状（BPSD）、原因疾患等の正しい理解に基づいて認知症ケア理念の重要性を理解する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知症だけにとらわれない人格や個性、想いを理解し、有する能力に応じた本人が望む生活を実現するケアの姿勢を身につける。</li> <li>2. 認知症の原因疾患とその症状の特徴、中核症状、心理的特徴及び行動・心理症状（BPSD）の発症要因について説明できる。</li> <li>3. 認知症ケアの理念を理解し、認知症ケアの方向性とその意義を説明できる。</li> </ol>	
概要	<p>本科目では、認知症の人の声や想い、生活の様子など認知症の人の全人的理解、個性の理解を踏まえて、認知症に関する基礎知識を学習し、認知症施策の基本理念やパーソン・センタード・ケアを基本とする認知症ケアの理念について学び、認知症の人が望む生活を実現するためのケア実践に繋げることを目指す。</p>	
	内 容	備 考
1. 認知症の人の理解	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 様々な認知症の人の声（非言語メッセージも含む）と暮らしの様子</li> <li>2) 周囲の人や社会への要望</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の声（態度や表情などの非言語的様子も含む）や暮らしの様子をそのまま受け止め、疾患だけではなく、人間性や人格、ライフスタイルなどの全人的理解を深める。</li> <li>・年齢、認知症の重症度の違いによる様々な人の考えや想い、要望、暮らしの実状を知り、個性の理解を深める。</li> </ul>
2. 認知症の理解	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 認知症の定義</li> <li>2) 中核症状と行動・心理症状（BPSD）</li> <li>3) 原因疾患別の特徴</li> <li>4) 認知症に間違えられやすい状態、MCI、若年性認知症</li> <li>5) 中核症状と有する能力の理解</li> </ol>	
3. 認知症ケアの理念	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 認知症ケアの変遷</li> <li>2) 共生社会の実現を推進するための認知症基本法の概要</li> <li>3) 認知症ケアの理念とその役割</li> <li>4) パーソン・センタード・ケアの基本的な理解</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共生社会の実現を推進するための基本法の目的や概要など、国の考え方を理解する。</li> </ul>

※オンラインを活用する場合は、同時双方向で意思疎通等できる方法とし、実質的に集合研修と同程度の効果が期待できることとする。

科目名	生活支援の方法	研修形態と講義時間：講義・演習（210分）
目的	日常生活・社会生活における中核症状の影響を理解した上で、認知症の人の意思を尊重し、有する能力に応じた生活の支援を可能とする生活環境づくりやコミュニケーションの実践方法を理解する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日常生活（食事・入浴・排泄・生活管理等）・社会生活における生活と中核症状による影響を評価できる。</li> <li>2. 認知症の人の意思を尊重した日常生活・社会生活の支援方法を理解する。</li> <li>3. 認知症の人の意志を尊重したコミュニケーションや生活環境の支援方法を理解し実践できる。</li> </ol>	
概要	<p>認知症の人が望む生活を支援するためには、日常生活（食事、入浴、排泄、生活管理等）における活動を中心とした社会生活全般に対する伴走的なサポートが求められる。そのためには、認知機能の低下による生活への影響の理解だけでなく、有する能力を活用した生活全般を支援する技術が必要である。本科目では、認知症の人の意思を尊重した生活を基本とし、中核症状の影響と有する能力の影響を理解した上で、生活環境づくり・コミュニケーション・活動支援の方法を修得する。</p>	
内 容		
1. 生活支援の方向性	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 生活の考え方</li> <li>2) 尊厳ある自立生活を実現するための支援</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活行為から社会生活まで含む生活全般の考え方を踏まえた上で、生活支援方法を理解する。</li> </ul>
2. 認知症によって起きやすい生活の障害と有する能力	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 中核症状と日常生活・社会生活における困難や有する能力の捉え方</li> <li>2) 生活上の困難と有する能力の評価方法</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知機能の低下等による生活上のつまずきだけでなく、遂行可能な活動を理解するとともに、認知症の人が望む生活に近づけるためにできることは何かを検討する。</li> </ul>
3. 日常生活（食事・入浴・排泄・生活管理等）への支援	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 日常生活（食事・入浴・排泄・生活管理等）場面における意思決定支援の方法</li> <li>2) 日常生活（食事・入浴・排泄・生活管理等）場面におけるコミュニケーションの方法</li> <li>3) 日常生活（食事・入浴・排泄・生活管理等）場面における環境の理解と支援方法</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知機能の低下等による障害と、有する能力による遂行可能な活動に対する評価や支援方法を学習する。</li> <li>・「認知症の人の日常・社会生活支援における意思決定支援ガイドライン」を参考にし、意思決定支援のプロセスや意思形成、意思表示、意思実現の具体的な支援方法について理解する。</li> </ul>
4. 社会生活（活動・交流・就労等）への支援	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 社会生活（活動・交流・就労等）における意思決定支援の方法</li> <li>2) 社会生活（活動・交流・就労等）における活動支援の必要性と考え方</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上記同様</li> </ul>

※オンラインを活用する場合は、同時双方向で意思疎通等できる方法とし、実質的に集合研修と同程度の効果が期待できることとする。

科目名	権利擁護の視点に基づく支援	研修形態と講義時間： 講義・演習（120分）
目的	権利擁護の観点から、認知症の人の意思決定支援の重要性や、認知症の人の意思に基づく適切な支援方法を理解し、自分自身の現状のケアを見直すとともに、身体拘束や高齢者虐待の防止の意識を深める。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知症の人の権利擁護を目的とした制度や考え方を理解する。</li> <li>2. 認知症の人にとって適切なケア、不適切なケアを理解する。</li> <li>3. 身体拘束や高齢者虐待を防止する役割を担い実践できる。</li> </ol>	
概要	<p>ケアの質を維持・向上させることによって認知症の人の生活の質を維持することは、介護サービスにおける権利擁護の実践であるといえる。介護職員等はその役割を十分に認識する必要がある。本科目では、認知症の人の意思決定支援を踏まえた権利擁護に必要な基本的知識を修得するとともに、権利擁護の観点から現在のケアの質を振り返り、具体的な権利擁護の方法として、高齢者虐待や身体拘束、不適切なケアの防止の取り組みについて学習する。</p>	
	内 容	備 考
1. 権利擁護の基本的知識	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 認知症の人の人権・権利とその擁護のための職員の役割</li> <li>2) 認知症の人の意思決定支援の必要性と考え方</li> <li>3) 認知症ケアの倫理の必要性と考え方</li> <li>4) 介護保険法及び関連法規と権利擁護</li> <li>5) 認知症の人の権利擁護に資する制度（成年後見制度等）</li> </ol>	
2. 権利侵害行為としての高齢者虐待と身体拘束	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 高齢者虐待防止法の概要</li> <li>2) 高齢者虐待・身体拘束の実態</li> <li>3) 高齢者虐待の背景</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養介護施設従事者等による高齢者虐待、養護者における高齢者虐待の両方を取り扱う。養介護施設従事者等による高齢者虐待については、具体例等により詳細に学習する。</li> <li>・表面化していない虐待やその周辺の「グレーゾーン」行為についても取り上げる。</li> </ul>
3. 権利擁護のための具体的な取り組み	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 介護サービスにおける権利侵害の捉え方と防止の考え方</li> <li>2) 権利侵害行為の防止のための具体的な方策</li> <li>3) 虐待等の事例が発生した場合の対応方法</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・権利擁護のための具体的な取り組みでは、具体的な方策や対応方法を学び、受講者自身のケアの振り返りを行う。</li> </ul>

※オンラインを活用する場合は、同時双方向で意思疎通等できる方法とし、実質的に集合研修と同程度の効果が期待できることとする。

科目名	家族介護者の理解と支援方法	研修形態と講義時間： 講義・演習（90分）
目的	介護する家族の支援を実践する上で、その家族の置かれている状況や心理、介護負担の要因を理解し、必要な支援方法が展開できる。	
到達目標	1. 介護する家族の置かれている状況や心理を理解する。 2. 家族の介護負担の要因を理解し、必要な支援方法が展開できる。 3. 介護保険施設・事業所等の介護職員等としての家族支援の役割を理解する。	
概要	可能な限り住み慣れた地域で認知症の人が生活を継続するためには、介護する家族の支援は欠かせない。本科目では、介護保険施設・事業所等の介護職員等として、家族介護者支援を行う上で必要な視点を理解し、多角的かつ具体的な支援方法について実践できるようになることを目指す。	
	内 容	備 考
1. 家族介護者の理解	1) 高齢者世帯や在宅介護の実態 2) 在宅で介護する家族を取り巻く課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険事業計画や国民生活基礎調査の結果などをもとに解説する。</li> <li>・歴史的背景とケア論としての在宅介護についても取り上げる。</li> </ul>
2. 家族介護者の心理	1) 様々な家族介護者の声 2) 家族介護者の介護負担の実態と評価 3) 認知症の人を介護する家族の心理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の人を支援する家族介護者の想いや要望について、複数の実際の声を知る。</li> <li>・介護者と被介護者の続柄や性別による介護者の心理についても取り上げる。</li> <li>・介護の肯定的側面についても取り上げる。</li> </ul>
3. 家族介護者の支援方法	1) 認知症施策における介護者支援 2) 介護保険施設・事業所等の役割 3) 家族の介護負担の軽減に向けた専門職の役割 4) 家族介護者支援のための具体的方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別演習により自分自身の役割を自覚する。</li> </ul>

※オンラインを活用する場合は、同時双方向で意思疎通等できる方法とし、実質的に集合研修と同程度の効果が期待できることとする。

科目名	行動・心理症状（BPSD）の理解と支援	研修形態と講義時間： 講義・演習（180分）
目的	認知症の行動・心理症状（BPSD）が生じている認知症の人に対して、行動の背景を理解した上で生活の質が高められるようチームで支援できる。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知症の人の行動の背景を洞察しケアを展開できる。</li> <li>2. 認知症の行動・心理症状（BPSD）に対してチームで対応できる。</li> <li>3. 認知症の行動・心理症状（BPSD）にとらわれすぎず、生活の質を高めるケアを検討できる。</li> </ol>	
概要	<p>認知症の人が生活の中で生じる困難さへの適切な対応ができない場合、ときに行動・心理症状（BPSD）として表出することがある。その際に生活歴や心理的側面、環境適応や健康状態の管理等の発症要因を分析し理解した上で、生活の質が高められるようチームで支援することが求められる。本科目においては、行動・心理症状（BPSD）への対症療法的な対応ではなく、その背景を理解した上で、認知症の人の生活の質を高める支援ができるようになることを目指す。</p>	
	内 容	備 考
1. 生活の質の理解	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 生活の質の考え方</li> <li>2) 生活の質を評価する視点</li> <li>3) 生活の質と行動・心理症状（BPSD）の関係</li> <li>4) 生活の質を高めるケアの考え方</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行動・心理症状（BPSD）の緩和が目的ではなく、生活の質を高めることが最終的な目的であることに留意する。</li> </ul>
2. 行動・心理症状（BPSD）の基本的理解	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 行動・心理症状（BPSD）の捉え方</li> <li>2) 行動・心理症状（BPSD）を評価する視点</li> <li>3) 行動・心理症状（BPSD）による生活への影響（日常生活・社会生活への影響）</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の行動・心理症状（BPSD）については国際老年精神医学会が提唱した定義を基にする。</li> </ul>
3. 行動・心理症状（BPSD）を緩和するケア方法の理解	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 行動・心理症状（BPSD）を緩和するためのアセスメント視点</li> <li>2) 行動・心理症状（BPSD）を緩和するケア方法（身体ケア、コミュニケーション、環境支援、活動支援、チームケア）</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメントシートの紹介だけではなく、アセスメントの視点を理解する。障害だけではなく、有する能力についてアセスメント及び支援する視点を理解する。</li> </ul>
4. 主な症状を緩和するケアの検討（事例演習）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の行動・心理症状（BPSD）について、発症要因とケア方法を検討する</li> </ul>	

※オンラインを活用する場合は、同時双方向で意思疎通等できる方法とし、実質的に集合研修と同程度の効果が期待できることとする。

科目名	学習成果の実践展開と共有	研修形態と講義時間：講義・演習（90分）
目的	認知症介護実践者研修におけるこれまでの学習成果を踏まえ、自施設・事業所において認知症ケアを実践することにより、研修で得た知識を実践において展開する際に生じる気づきや疑問・課題を明らかにする。それらの自分自身の認知症ケア実践の課題や取り組みの方向性を検討し、他の受講者と共有することにより、知識の活用に関する幅広い視点を得る。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本科目までの学習成果を実践に活用することができる。</li> <li>2. 自分と認知症の人のこれまでのかかわりのあり方を振り返ることができる。</li> <li>3. 自分自身の認知症ケア実践の課題や取り組みの方向性を明らかにすることができる。</li> </ol>	
概要	<p>認知症介護実践者研修では、単に知識を得るだけではなく、研修で学習した成果を現場で実際に応用し、その経験をもとに振り返りながら、実際に実践に活用できる技術として修得することを目指している。本科目では、これまでの学習を踏まえ、自施設・事業所において中間課題として①認知症の人とのコミュニケーション、②これまでの学習を踏まえたケア実践とその場面の記録に取り組む。それらの取り組みの結果と結果からの学びを、受講者間で共有することにより、自分自身の認知症ケア実践上の課題や取り組みの方向性を明らかにすることを目指す。</p>	
	内 容	備 考
1. 自施設・事業所における実践の準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期研修での学びを踏まえた実践計画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期研修の最後に30分程度実施する。</li> </ul>
2. 自施設・事業所における実践	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 自施設・事業所のサービスを利用する認知症の人とのコミュニケーション</li> <li>2) コミュニケーションの結果と結果からの学びの記録</li> <li>3) 職場実習における対象事例の選定と情報収集</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期研修終了後から後期研修の開始までに実践すること。</li> <li>・課題提示はオリエンテーション等の時間を利用して行う。</li> <li>・認知症介護実践者研修におけるこれまでの学習成果を意識しながらコミュニケーションをとる。</li> <li>・実際の場면을具体的に記録する。</li> <li>・原則として事例収集で協力を得る認知症の人は、職場実習で取り組む対象とする。</li> </ul>
3. 自施設・事業所における実践の報告	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 成果の共有</li> <li>2) 上記1) による気づきをさらに共有</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後期研修の最初に60分程度実施する。</li> </ul>

※オンラインを活用する場合は、同時双方向で意思疎通等できる方法とし、実質的に集合研修と同程度の効果が期待できることとする。

科目名	共生社会を推進する地域資源の理解と展開	研修形態と講義時間：講義・演習（150分）
目的	関係職種、団体との連携による地域づくりやネットワークづくり等を通じて、認知症の人が尊厳を保持しつつ希望を持って暮らすことができる共生社会の実現を推進するための地域資源の活用の重要性が理解できる。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知症の人にとっての地域資源の意味と介護職員等の役割を理解する。</li> <li>2. 地域の資源を活用しながら認知症の人が尊厳を保持しつつ希望を持って暮らすことができる共生社会に向けた地域での取り組みを理解する。</li> <li>3. 居宅・施設サービスに限定されないインフォーマル・フォーマルな地域資源を知り、ケアに活用する方法を理解する。</li> </ol>	
概要	<p>認知症の人が尊厳を保持しつつ希望を持って暮らすことができる共生社会の実現を推進するためには、介護職員等が地域資源を理解し、認知症の人や家族が望む地域・社会生活を共に高めていく支援が求められる。しかし、認知症によって社会との関係性が希薄になったり、これまでの生活環境から異なる環境への変化を強いられ、地域社会で孤立したりすることなどが懸念される。本科目では、地域社会や関係職種、団体との連携による地域づくりやネットワークづくり等の学びを通じ、地域の資源をケアに活用し、認知症の人が尊厳を保持しつつ希望を持って暮らすことができる共生社会を推進するため地域資源の理解と展開の方法を学習する。</p>	
内 容		
1. 共生社会の実現を推進する地域資源と実践者の役割	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 「共生社会」と「地域」の考え方</li> <li>2) 共生社会と認知症ケア</li> <li>3) 認知症の人の生活と地域資源</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共生社会と地域の関係性を明確にする。</li> <li>・日常生活のサポートだけでなく、地域活動、社会活動への参加や参画、就労等まで含む社会生活をサポートする必要性を理解する。</li> </ul>
2. 共生社会の実現を推進する地域資源の活用	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 介護保険・認知症施策等に基づくフォーマルな地域資源の理解と活用</li> <li>2) インフォーマルな地域資源の理解と活用</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の人や認知症を正しく理解する活動の実践事例を理解する。</li> <li>・認知症の人の個性や能力に応じた地域・社会への参画や活動の場を提供あるいは支援しているサービスや資源を理解する。</li> <li>・居宅・施設サービスに限らない介護保険施設・事業所等における地域資源間の連携や展開方法を理解する。</li> </ul>

科目名	アセスメントとケアの実践の基本	研修形態と講義時間：講義・演習（330分）
目的	認知症の人の身体要因、心理要因、認知症の中核症状のアセスメントを行い、具体的なニーズを導くことができるようアセスメントの基本的視点を理解する。アセスメントを踏まえた目標の設定と、目標を実現するためのケアの実践計画の作成・立案・評価ができる。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 支援過程における認知症の人のアセスメントの基本的視点を理解し、認知症の人が望む生活とそれを阻む身体要因、心理要因、神経心理学的要因等を明らかにすることができる。</li> <li>2. 認知症の人の望む生活像について事実を基に洞察し、その達成に向けた目標を設定できる。</li> <li>3. アセスメントに基づき、認知症の人の望む生活の実現に向けたケアの実践計画を作成・立案・評価できる。</li> <li>4. アセスメント及びケアの実践計画についてのケアカンファレンスを行うことができる。</li> </ol>	
概要	認知症の人の生活全般を支援するためのケアの実践が展開されるためには、多角的な視点でアセスメントが行われた上で、その人の望む生活像を洞察しケアが行われる必要がある。本科目では認知症の人の望む生活像について事実を基に洞察し、達成に向けた目標を設定する過程を学ぶ。また、アセスメントを踏まえ、認知機能障害の影響を大きく受けて生じている課題（例えば、BPSD）の予防や軽減に資する部分について、ケアの実践計画を作成・立案・評価する方法について学び、演習を通してこれまでの学習内容を統合することを目指す。	
	内 容	備 考
1. 認知症の人のアセスメントの基礎的知識	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 認知症の人の望む生活像設定の考え方</li> <li>2) 認知症の人のアセスメントにおけるニーズ抽出の考え方</li> </ol>	・アセスメントツールの解説ではなく、集めた情報を基にニーズや望む生活像を明確にするプロセスについて学習する。
2. 観察の方法とポイント	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 認知症の人の背景を知るための観察の視点</li> <li>2) 観察と聴き取り技法及びその記録方法</li> </ol>	
3. アセスメントの実際（事例演習）	・認知症の人の1事例をアセスメントし、ニーズ抽出を行う。	・施設、在宅いずれの事例でもよい。
4. 実践計画作成の基礎的知識	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) ケアの実践計画における目標設定の方法</li> <li>2) 具体的なケアの実践計画作成の基本視点と方法</li> </ol>	
5. 実践計画作成の展開（事例演習）	・ケアカンファレンスによって、ケア計画を立案するプロセスを体験的に学ぶ。	
6. 実践計画の評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) ケアの実践計画の評価視点</li> <li>2) ケアの実践計画の評価方法</li> </ol>	

科目名	職場実習の課題設定	研修形態と講義時間：講義・演習（300分）
目的	認知症の人が望む生活の実現に向けて、適切にアセスメントを行い、課題と目標を明確にした上で、ケアの実践に関する計画を作成することができる。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研修で学んだ内容を生かして、現状のケアを評価することができる。</li> <li>2. 所属部署等に良い影響を及ぼすケア実践計画が作成できる。</li> <li>3. 認知症の人の望む生活像をアセスメントし、課題と目標を明確にできる。</li> </ol>	
概要	認知症介護実践者研修の講義・演習で修得した知識、技術を実践で活用するためには、現状のケアの評価をした上で、課題を見出し、改善のための計画を立てて取り組む必要がある。本科目では、対象者を定め現状の課題分析を行い、ケア実践計画案を作成する。その上で、職場実習の行動計画を立てることを目指す。	
内 容		
1. 職場実習のねらい	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 職場実習の意義</li> <li>2) 職場実習の全体像の理解</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者は、事前課題として職場実習の対象者を2例程度準備する。</li> </ul>
2. 対象者選定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 対象者の選定</li> <li>2) アセスメントを通じた課題の抽出</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持参した課題事例についてアセスメントを個人で行いグループ発表し助言をもらう。</li> </ul>
3. 課題設定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 選定した対象者の課題に関する取組みの方向性の整理</li> <li>2) 職場実習の課題決定</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持参した課題事例の望む生活像を個人で検討する。</li> </ul>
4. 4週間の行動計画の作成	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 再アセスメントする項目の検討</li> <li>2) ケア実践計画案の作成</li> <li>3) 職場実習の行動計画の立案</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4週間の行動計画を個人で作成しグループで報告する。職場に帰ってから再アセスメントが必要な点を整理する。</li> <li>・研修時間が不足する場合は、地域の実状に応じて任意に延長することが望ましい。</li> </ul>

※カリキュラムの目的および到達目標の達成が見込めない場合、実施主体の判断によって学習時間の延長を可能とする

科目名	職場実習（アセスメントとケアの実践）	研修形態と講義時間： 実習（4週間）
目的	研修で学んだ内容を生かして、認知症の人や家族のニーズを明らかにするためのアセスメントができる。アセスメントの内容をもとに、認知症の人の生活支援に関する目標設定、ケア実践計画及びケアの実践を展開できる。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研修で学んだ内容を生かし、自施設・事業所を利用する認知症の人のニーズをアセスメントできる。</li> <li>2. 認知症の人の生活の質の向上を目的にしたケア実践計画を立案できる。</li> <li>3. ケア実践計画にもとづき、認知症の人への生活支援に関する実践及び評価を展開できる。</li> </ol>	
概要	本科目は、課題となる事例に対し研修中に学んだ内容をもとにアセスメントを行い、ケア実践計画を実施する過程である。実習は認知症の人の望む生活の実現に寄与する計画を立て、それに基づいた詳細な記録と評価を行う。	
内 容		備 考
1. 実習の準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場内で研修中に作成したケア実践計画の理解を得るため説明を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習中の記録はすべてとる。</li> </ul>
2. 実習の開始	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケア実践計画に基づき計画的に実施する。</li> <li>1週目：再アセスメント実施、ケア実践計画案の修正</li> <li>2週目：修正したケア実践計画に基づき実践（中間報告の実施）</li> <li>3週目：ケア実践計画に基づき実践</li> <li>4週目：実践したケアの評価</li> <li>・実践内容の振り返り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間報告の実施を推奨する。</li> <li>・中間報告の頻度や方法は、研修実施主体の状況に応じて実施する。</li> <li>・評価は、定量評価・定性評価両方を導入するよう計画する。</li> <li>・認知症の人が望む生活の実現に寄与したか考察する。</li> </ul>
3. 報告準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4週間の成果を評価し報告の準備を行う。</li> </ul>	

科目名	職場実習評価	研修形態と講義時間： 講義・演習（180分）
目的	アセスメントやケア実践計画の実施結果を整理した上で、客観的に評価、分析し職場及び自己の認知症ケアの今後の課題を明確にすることができる。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実施したケア実践計画を整理し、他の受講者に伝えることができる。</li> <li>2. 他の受講者のケア実践計画が、認知症の人にとって有益なものであったか客観的に評価し助言することができる。</li> <li>3. 結果を分析し職場及び自己の認知症ケアの今後の課題を明確にすることができる。</li> </ol>	
概要	本科目は、職場実習で実施したケア実践計画の実施結果を文章等でまとめ、それについてグループ発表後、相互評価を行う。そこで得られた助言や指導をもとに今後の職場及び自己の認知症ケアの実践に対する課題を明確にすることを旨とする。	
	内 容	備 考
1. 職場実習報告	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 目的、方法、結果、考察、今後の課題の報告</li> <li>2) 報告についてグループでの質疑応答</li> <li>3) 受講者間の相互評価並びに認知症介護指導者からの助言</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単に要介護度の変化や認知機能の評価にならないよう、生活の質に関する評価を行う。</li> <li>・6名程度のグループ報告を行い認知症介護指導者が司会進行を行う。</li> </ul>
2. ケア実践計画の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・報告内容の相互評価並びに認知症介護指導者からの助言をもとに、ケア実践計画を見直し・修正し、今後の課題を明確にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相互評価、認知症介護指導者からの助言を受けた点について個人ワークで修正し提出する。</li> </ul>
3. 職場への報告と展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場実習と今後の取組み課題について整理し職場に報告し、研修成果について、加算取得を含めた次の展開に結びつける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修成果を実践に活かすことによる加算取得や修了後の活動評価等について説明し、認知症の人の生活の質向上のために展開していくことを意識づける。</li> <li>・研修時間が不足する場合は、地域の実状に応じて任意に延長することが望ましい。</li> </ul>

※カリキュラムの目的および到達目標の達成が見込めない場合、実施主体の判断によって学習時間の延長を可能とする